

WISH TIMES



WISH TALENT NIGHT



目次

- 1 「その才能、刮目せよ」
- 7 「タレントナイトwithコロナ」
- 9 「ステージの上での再会
～2年ぶりの"本番"への高揚～」
- 11 タレントナイト寮生単独インタビュー

「その才能、刮目せよ」

ライター: RIO

翻訳: YUI

デザイン: MOEKA

WISHには、色とりどりの野菜で彩られたサラダボウルのように、個性豊かな寮生がたくさんいます。そんな、色々なことに興味をもって、様々な場所で活躍している寮生が一堂に集まる夜、それがタレントナイトです。

先月開催されたタレントナイトでは、12組のパフォーマー達がそれぞれの個性の光を放っていました。そのまぶしさ、太陽のごとし。直視できませんでした。私はゲストパフォーマーの一員として現場近くにいたので、そこからのレポをお届けしたいと思います。長いので、気になるところだけつまみ食いしちゃってください。正直、言葉だけでは伝えきれないので、ぜひぜひWISHRAのYouTubeで、イベントの様子が公開されたら見ていただきたいです。

19:00 イベント開始！

始まりは、YUKI。フリースタイルバスケで華麗なボールさばきを見せてくれました。ダイナミックなアクロバットを掛け合わせたパフォーマンスにみんなの目が釘付けでした。指の上でボールがものすごい速さで回っていて、YUKIが地球の自転を司っているとしたら地球上のものが全部吹っ飛んでいきそうだ、と想像していました。

HIROMU。トランペットでオリジナルディズニーメドレーを演奏してくれました。寮にいながらしてみんなの心はディズニーに飛んでいきました。いや、HIROMUが第二の東京ディズニーランドをここ中野にオープンしたという表現が正しいかも。ミッキーが勘違いしてやってきて、ZOOMにコメント欄に「ハハッ」というコメントを残していったのが印象的です。私は演奏を聴いてからずっとディズニーに行きたくて、寝るときに自然と舞浜の方を向いているというのはここだけの話。

YUI&AIRI。MAMAMOOの「HIP」で、クールでキュートなダンスを披露してくれました。マスクを着用している+大きな声を出せないで、心の中で盛大に黄色い悲鳴をあげていました。ペンライトを持っていなかったのが悔やまれます。実は2人は10階のルームメイト同士。私の担当ブロックの子達なので、母のような気持ちで見守っていました。ルームメイトと一緒にパフォーマンスできるなんて、最高ですよ。仲の良い様子に本当に癒されました。



YUNA。自分で作詞作曲をしたオリジナルソングを弾き語りしてくれました。かわいらしい笑顔と歌声で、現場では「惚れた」という声も。天使が現れたのかと思ひ、思ったよりお迎えが早いなあと焦りました。歌詞も本当に心にすっと入ってきて、心身ともに浄化されました。YUNAがどんな経験をしてどんな想いで作ったんだろうとこの曲が生まれるまでの過程を想像しちゃいます。YUNAの真心と魂がこもった音楽がたくさんの人に届きますように。

KOKONE。RADWIMPSの「そっけない」をウクレレで弾き語りしてくれました。

曲選が神。という声が多数ありましたが、本当にKOKONEの深くて引き込まれる、そして力強い、海のような歌声とこの曲がベストマッチしていました。夢見心地で聞いていて、気づいたときにはいつの間にか演奏が終わっていました。ウクレレの優しい音色とKOKONEの歌声で、身体の緊張はどこいっちゃった？というぐらいリラックスしていました。リラックスしすぎて、全身が通常運転になるまで1週間はかかりましたね。





SEIMA。三味線で、「じょんがら節」と「はらふりほむら」を演奏してくれました。まずは、曲名のインパクトがすごくて衝撃。そして、SEIMAが演奏を始めた瞬間の迫りに衝撃。そして、三味線のかっこよさを知って衝撃。息を付く間もなく連続攻撃してきました。一年分の衝撃をうけたので、もうきっと今年は何が来ても驚かない。そう思います。

ガッキーと星野源の結婚にも驚かないぐらい耐性がつきました。

これまで三味線の演奏はあまり聞いたことが無かったのですが、とてもかっこよくて、令和のネクストブームになりそう。それにしても、はらふりほむらってどういう意味なのか気になりすぎて夜な夜な眠れません。

MYU。サックスで人気ソングメドレーを披露してくれました。

ジブリの名曲メドレーでは、サックスの雄大な音色で、神秘的なジブリの世界に引き込まれました。もう、すぐそこで「生きろ、そなたは美しい」という声が聞こえていました。アシタカも太鼓判。それまでのしっとりした雰囲気とはうってかわって、ぱあっとした華やかな音色で始まったルパンのテーマソングでは、ZOOMのコメント欄でルパンと銭形警部がドタバタ劇を繰り広げていました。素敵な演奏はこんなに有名なキャラ達を呼び込んじゃう力を持っているんですね。

KOTONE&COCO。二人でYOASOBIの「夜に駆ける」と Anne-Marie & James Arthurの「Rewrite the Stars」を歌ってくれました。

2人の澄んだ歌声のハモリであやうく昇天しかけました。私は部屋の外で聞いていたのですが、部屋全体を包み込むような包容力に溢れた演奏でした。どちらも夜をイメージさせる、まさにタレントナイトにぴったりの曲で、駆けたあとにリライトするという完璧なステップを踏んでいましたね。



TATSUYA&KEIIN。BTSのDynamiteでダンスを披露してくれました。上手だけれども面白さも忘れていないところが流石。画面を見るとみんな楽しそうで、笑いがビッグバン並みに爆発していました。私も笑いすぎてシックスパックができました。KEIINは牛乳が描かれたエプロンとアロハシャツの組み合わせがとても似合っていました。TATSUYAの動きがすごく滑らかで、関節はどうなっているんだろうと思いました。ダンスは苦手科目なので、ぜひ教えてもらいたいです。





MIU&HIKARI。愛の挨拶と、情熱大陸を演奏してくれました。2人の奏でるハーモニーが本当に美しく、みんな心を奪われていました。ZOOMのコメント欄では、11階の愉快的な仲間達がものすごい盛り上がりを見せていて、MIU&HIKARIは私のものだ、と奪い合うカオスな状況になっていました。私も今から参戦しようかな。MIUは、よく音楽室で練習するのを見かけて、あ、ヴァイオリンやっている子いるんだ！と勝手に嬉しくなっていました。また寮で演奏する機会があればパッヘルベルのカノンを弾こうねと約束したので今から楽しみです。このように、音楽を通して寮生同士、RAと寮生が繋がれたことが今回のタレントナイトの大きな魅力の一つだと思います。

私たちRAのパフォーマンスについてもちょこっとおまけで書きます。

RIO&MIHO。元ルームメイトのMIHOと演奏する機会をいただきました。1年生のころからずっと一緒に弾きたいねと話していたので最高に幸せな時間でした。感謝が溢れます。

SATOSHI&KAITO

オレンジと白のペアルックがかわいかったです。普段から兄弟みたいに仲が良い2人ですが、もはや兄弟みたいとかではなく兄弟ですね。DNAの壁を超えちゃいました。SATOSHIの包み込むような歌声と、KAITOの優しいギターの音色で癒されて、色々な感情がこみあげてうるうるしながら聞いていました。2人によるヨルシカの「夜行」、オリジナルよりも好きで、毎晩聞きたくなります。眠れない夜はSATOSHI&KAITOに電話したらきっと歌ってくれると思うので、みなさんぜひ。



21:30イベント終了！

以上、現場からのレポートでした。

RAと寮生は自室からイベントに参加しましたが、部屋にいながらしてこんなに豪華なコンサートを楽しめるなんて、時代の進歩はすごいですね。頼むから投げ銭をさせてくれ、という声がたくさんあがっていましたが、本当に無料で聞いて良いのかというレベルでした。

タレントナイト担当のKAITOからは、「パフォーマーからの、楽しかったとか、またやって欲しいという言葉が一番嬉しかった」というコメントをもらいましたが、本当に一人一人が楽しそうで、輝いていて、私もその様子に感動し、元気をもらえました。

イベントを作ってくれたパフォーマー、寮生、担当RA、RAのみんなに感謝です！

そして『今後のみんなの活躍を刮目せよ。』



タレントナイトwithコロナ

ライター: MIHO

翻訳: YUKIE

デザイン: MOEKA

「大学1年生の春休み、突如WISH生活が奪われた。北海道で217日という時が過ぎた。」

タレントナイトは、パフォーマーのみではありますが、久しぶりの対面イベントでした！

開催直前に緊急事態宣言が延長されるなど、道のりはかなり険しいもので、なんとか感染予防との両立を頑張って実現されました。今回私は、タレントナイト本番までの軌跡をできるだけシンプルに記録したので、パフォーマーの裏側を覗いてみてください！

ー北海道出身と沖縄出身のルームメイト

2019年3月、WISHに入寮した。リオと初めて出会った。国際寮だから、もちろん世界各国からの寮生がいる。しかし忘れてはならないのが、47都道府県すべての寮生がいることだ。WISHでは日本の端と端で育った二人と一緒に暮らすことも実現するのである。彼女はヴァイオリンを弾けて、私はピアノを弾ける。WISH生活は2年ある。「いつか」一緒に演奏できるといいねと話していた。

ー突如奪われたWISH生活

それから1年後、WISH生活が奪われた。北海道で217日という時が過ぎ去った。一緒に演奏するどころか、会うことすら叶わなかった。そして、卒寮までのタイムリミットは半年を切っていた。

ーWISH生活延長とタレントナイト

幸いにもお互いRAになった。大学生活も折り返し。2021年4月、リオから誘われた。私は二つ返事で「やる」と伝えた。私の口癖はいつも「いつか、やってみたい。」だった。しかし、ソレのおかげで気づいた。「いつか」は突然奪われる。だから「今、やってみよう。」

ーちょっと裏話

ピアノは4歳から14歳まで習った。新しい曲を練習するのも、人前で発表するのも、いつぶりだろう。2か月間、久しぶりにほぼ毎日ピアノを弾いた。練習を始めてから気づいた。とっつきやすそうな見た目とは裏腹に、繊細で複雑な相手だ。練習を始めてすぐ、やめようかと思った。これは、秘密。

うまく時間をつくって練習した2か月間。リオとの演奏中も、寮生の演奏中も、私は幸せ者以外の何者でもなかった。WISHにいられること。一緒に演奏できること。多様な才能を目の当たりにすること。楽器を習わせてもらえたこと。大切なルームメイトができたこと。RAになったこと。そして、タレントナイトを企画して開催してくれたこと。見落としていた幸せが次から次へと顔を出した。突如「日常」を奪ったソレのせいで、感情の水風船が割れたこともあった。ソレに奪われたものは大きすぎるが、与えてくれたもの、気づかせてくれたものも大きい。

トキメキをつくるすべてに、ありがとう。



ライター: HIROMU

翻訳: YUKIE

デザイン: MOEKA

「ステージ上での再会 ～2年ぶりの“本番”への高揚～」

先日、『タレントナイト』という寮生の中から有志を募って演奏会のようなものをするイベントに出演させていただきました。自作の曲を発表する人がいたり、ダンスを披露する人がいたり、はたまたバイオリンを演奏する人がいたりと出演者のパフォーマンスもバラエティーに富んでおり、またオンラインでの開催になりましたが100人以上の寮生が参加して、大盛り上がるのイベントとなりました。

出演者のエントリー締め切りが入寮後すぐであったということもあり、大丈夫だろうかという戸惑いもありましたがRAの方に背中を押され、半ば勢いでエントリーしてしまいました。

何をするかということを決める前に出演を決めてしまい、何回かエントリーしたことを後悔したりもしましたが、してしまった以上は腹を括るしかありません。そこで中高で所属していたオーケストラの部活の5年間のきつい日々をともに乗り越えた相棒であるトランペットと共に出演することに決めました。しかし高校三年生の間と浪人期の2年間という長いブランクを経てかなり下手になっていてとても焦りましたが、なんとか人に聞かせられる程度にはもっていったのではないかと思います。

本番前夜、部活の全国大会や定期演奏会の本番前に見る、自分の中では中学3年生の頃から恒例となっている夢である本番中にステージの上で盛大にミスを犯すという夢を見て改めて不安であることを再確認しつつ迎えた本番当日。2年ぶりの本番への不安と興奮が混ざった変な高揚感を感じながらもそれがなんとも懐かしく、愛おしい感覚に襲われました。

そして自分の番となり、息を吸い、そしてトランペットと共に音をうたう。

その時隣には中高生の時部活でいつも隣で引っ張ってくれた同期、不甲斐ない自分を支えつつもついてきてくれた後輩たち、要領の悪い自分に根気良く指導してくれた先輩方、大切なオーケストラの仲間たち、そして前で指揮を振る顧問の先生。一気にたくさんの懐かしい記憶が蘇ってきて、吹きながら泣きそうになってしまいました。そんな中思ったのは、

“ステージに立つと、様々な記憶と再会できる”
ということです。

終了後、4階に戻るとたくさんの友達から「よかったよ!」「うまいな!」などと言ってもらい、あらためてお客様の大切さを実感し、またステージに立ちたい、そして見てくださる方に楽しみ、喜び。感動を届けたい、そう思いました。

入学、そして入寮してまだ間もない自分ですが、他の方の様々なパフォーマンスを見てある意味で“早稲田らしさ”を感じました。そんな“早稲田らしさ”を肌で感じることのできるWISHという環境はとても良いものです。またこのような機会があったら果敢に挑戦していき、沢山の方々に多くの感動を届けていきたいと思います。





ライター、翻訳、デザイン: MOEKA

タレントナイト 寮生単独インタビュー

こんにちは！

WISH公式イベント——タレントナイト企画担当RAのもえかです。

今回はパフォーマーとして、弾き語りを披露してくれたゆなさん（9階・文化構想学部2年）にインタビューしました！

ゆなさんは中学生の頃から軽音楽部に入られていて、今では作詞作曲、アレンジを自身でこなす多彩な才能を持つシンガーソングライターとして活躍しています。

そんなゆなさんに、イベントの感想やWISHの魅力について詳しくお話を聞いてきました！

【挑戦することの大切さ】

一本日はよろしくお願ひします！早速ですが、タレントナイトに参加したきっかけを教えてください。

私はシンガーソングライターを将来の道の一つとして考えていて、自分の歌を少しでも聞いてくれる人が増えたら嬉しいなと思ったことが一番の理由です！あと、今までなかなか人前に出て披露する機会がなかったのて、今回は自分の緊張を乗り越えるためにも、勇気を出して参加してみました。

ーなるほど。準優勝おめでとうございます！参加してみてどうでしたか？

ありがとうございます！イベントのおかげで、WISHで音楽をやっている寮生たちにも出会えたり、Zoomで予想以上にたくさんの人たちに観てもらえて、貴重な経験になりました。WISHには多様な寮生たちがいることを改めて実感しました。

オンラインだとどうしてもその場止まりで終わってしまうことが多いけれど、寮生同士つながりを持てたことはすごく嬉しかったです。RAがこのような場を企画してくれたこともありがたかったです。

一喜んでもらえて良かったです！あの「shine」という曲は、曲名と歌詞にどんな意味が込められているのですか？

あれは去年の冬に作った曲で、コロナ禍で何も動けずにいるもどかしかったのが、WISHに入り、サークルでも新しい出会いをいくつも重ねて、光が差したという意味で「shine」が一つ目の理由です。

また、劇団森（しん）というサークルの存在も大きかったので、読み方は「シン」がいいと思いました。そしてフランス語の「shine」は語末の「e」を読まないのので、結果「shine(シン)」になりました。

基本的には大学で新たにできた友達に向けて作られた曲です。でも高校の友達の存在も大きくて、普通であれば大学生に入ると高校の友達とは疎遠になりがちだけど、コロナ禍でもっと周りの人を大切にしようと思いました。「shine」はかなり自体験に沿っていて、私の大事な曲として色んな想いが込められています！

【いつでも帰って来たいと思える居場所】

一ゆなさんにとってWISHとは、どのような存在ですか？

寮生もそうだし、寮生活をサポートしてくれる方々も優しい方が多くて、いつ帰ってきても誰かがいる、そんな暖かい居場所です。もう一つは、国際寮であることが魅力的です。留学生たちとの交流で新しい価値観を得られたこと、今回のタレントナイトでは自分の好きな音楽を通して、みんなに想いを伝えることができました。



ーでは最後に、寮生に向けて一言お願いします！

何か新しいことを始めるには、どうしても一歩踏み出すには勇気が必要で、不安や悩みはつきものです。自分の恥ずかしさとか、周りの目が気になってしまう時もあるけれど、WISHはそんな自分も受け入れてくれる大切な居場所であることに気づけました。

実際イベントに参加してみると、緊張とは比べものにならないくらい最高の仲間に出会えるので、思い出作りのためにも、是非参加してみたいです！

ー今回のインタビューは以上となります。ゆなさんご協力ありがとうございました！

WISHでは初のタレントナイトをオンラインライブで開催しました。当日は多彩な寮生によるパフォーマンスが繰り広げられ、なんとZoom配信では100人以上の寮生にご視聴いただき、イベントは大成功でした！次回のタレントナイトもどうぞお楽しみに！

*本イベントは徹底した感染防止対策の下で開催されました。



Contributions

Writers



Yuna



Hiromu

Translators



Yui

RA Supporters



Moeka



Asami



Satoshi



Renuka



Yukie



Miho



Rio



Ren